

熊本のものづくりの 将来を支える!!

～工業系高校生の 就職活動事情～



工業系高校で学ぶ生徒は、県内のものづくり産業を支える貴重な人材。より多くの生徒が地元企業への就職を選択するための取り組みが進んでいます。生徒の思いや現在の就職活動事情を、熊本工業高校の「熊本しごとコーディネーター」迫田章さん(70)に聞きました。



変化する企業選定の条件 注目集める「ブライツ企業」

「熊本しごとコーディネーター」とは、県内の県立工業系高校10校に常駐している就職支援のためのコーディネーターです。①生徒への就職支援 ②企業の求人開拓 ③生徒への求人情報の提供 ④生徒や保護者との就職相談 ⑤企業への情報発信などの取り組みを行っています。

生徒たちが志望する企業を絞り込む際に、重視する条件は時代とともに変わってきました。勤務先が県内かどうかはもちろん、「ブライツ企業」の認定を受けているかも注目されるようになりました。また、学校の先輩が動いていることが、安心して働ける企業かどうかの判断材料になるようです。その他、社員寮などの宿舍が用意されているかどうかも重要なポイントです。

よりよい人材を確保するためにはさまざまな取り組みが求められます。

3年生になる前から進路選択 早期の情報提供がカギ

企業から学校現場への、情報提供のタイミングが、大切だと考えています。

例年、高校3年生に進級した生徒たちにとって、4月は志望する企業を方向付ける時期です。企業はそれ以前に情報提供の働き掛けを行うことが必要なのですが、実際に求人票が受け付けられるのは7月1日から。生徒がすでに就職志望先(企業)を方向付けた後、それを変更することは難しい状況です。

実際に生徒が就職について考え出すのは1～2年生の時期であり、どんなに早くても早すぎるといったことはありません。学校でも早期に働き掛けて、生徒がインターンシップや企業見学会、職業講話等を活用して企業と触れ合う機会を設けるように心掛けています。

生徒に地元の企業を知ってもらい、実際に業

務を経験するなど、良質な体験を提供することで、県内定着率の促進にもつなげていきたいですね。

企業と学校の情報共有が 早期離職を防ぎ定着率をUP!

就職を目指す生徒たちに伝えたいことは、「腰を据えてじっくりと考え、保護者や先生、先輩を交えてしっかりと話し合ってもらいたい」ということ。若い世代の早期離職も課題の一つになっており、退職を防ぎ、職場定着率を上げる取り組みが必要です。

そのためには重要となるのが「企業の情報提供」。生徒にとって貴重な情報を提供するためにも、企業の採用担当の皆さんに学校へ足を運んでいただき、PRしてもらおうは大歓迎です。

企業と学校のコミュニケーションは不可欠。情報を共有し強いパイプでつながることが、将来の求人の礎になります。また、入社後の企業での教育(研修)を充実させ、早期離職防止に取り組むことも求められます。

求人票の特記事項を活用し 働く楽しさ、安心を伝えるツールに

企業情報の要となるのが「求人票」です。企業の概要や福利厚生などの労働条件だけでなく、教育制度、具体的な業務の内容、ブライツ企業認定、宿舍の有無など、特記事項の欄は企業PRにつながるものです。

生徒にとって就職活動で大事なことは、企業研究と自己理解です。詳細な情報提供、働く楽しさを伝えることで、人材の確保も可能となります。また、生徒が工業系高校で学んだことを発揮できるものづくりの現場の魅力を存分に伝える求人票であってほしいですね。

工業系高校生へのアプローチ 4つのポイント

✓ 生徒が気になるキーワード

- ①学校の先輩が勤めている
- ②やりがいを持って安心して働くことができる
- ③社員寮などの宿舍がある
- ④人材研修など教育投資に力を注いでいる

✓ 情報提供のターゲットは高校1～2年

✓ 学校にPRに行く行動力のある企業

✓ 求人票を活用し、仕事をPR

県内工業系高校で唯一指定!

災害対応型 エンジニアを育成する SPH

平成30年度、熊本工業高校は、県内の工業系高校で唯一の「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)」(文部科学省)の指定を受け、「産学官協働により災害対応型エンジニアを育成する教育プログラムの開発」を研究課題に、熊本地震に学ぶことから始め、創造的復興を果たすため、災害に対応できるプロフェッショナルを育成しています。

県内企業の取り組み

工業系高校生は即戦力! 熊本の創造的復興を支えよう

九州電設株式会社 代表取締役社長 川内省三さん(46)

工業系高校生は、電工業界に必要な技術や資格を取得している、いわば即戦力。当社では例年10人ほどの新入社員を採用していますが、工業系高校生には学業で培った専門知識と技術に大きな期待をしています。第一種電気工事士の資格取得には5年間の実務経験が必要のため、その間に技術教育を現場で実践し、電気工事のエキスパートを

育てています。また積極的にインターンシップを受けているほか、入社後には資格取得に必要な費用の助成なども行っています。桜町の再開発や東京オリンピック関連など、歴史的な事業に携われることは大きなやりがいにつながります。ぜひ私たちと共に熊本の創造的復興を支えていきましょう。

